

個人山行

立山連峰：五色ヶ原

- ◆日程 2020年9月21日(月・祝)～22日(火・祝)
 ◆メンバー L：OT
 ◆天候 晴時々曇

SDLらと剣登頂の後、そのまま立山を経て北アルプスを南下のすえ新穂高に至る5泊6日の計画を立てた。あとは天候と体調次第だ。計画の初日、すなわち剣山行の3日目は、メンバー全員で立山を縦走することになり、賑やかで楽しい前半となった。雄山を下山してすぐの一ノ越で皆と別れ、一人先に進む。1時間超の遅れを取り戻すべくひたすら進む。立山縦走最後の浄土山付近で急に人が少なくなる。縦走路のある龍王岳の麓に取って返し、いよいよ立山の外に下っていく。正面には次の目標である薬師岳が大きな姿を見せている。鬼岳、獅子岳と順次パスしていく。同じ方向に進む人はほとんどおらず、この連休を利用して薬師岳室堂に向かって来る人ばかりだ。一組だけ赤牛岳から来た人がいた。次第にガスで遠くが見え難くなってきた。ザラ峠への下りが長く急に感じられる。うっかり足元の石を蹴り落してしまったが、直下に誰もおらず胸をなでおろす。最後の登り返しは苦しかったが何とか予定時刻に山荘に辿り着いた。前日で営業を終了し、小屋締めの中だ。テント場は無料でよいが、熊に注意せよとのこと。少ない在庫からジュースを売って貰い、喉を潤してからキャンプ場へ。営業終了後とは言え、先日の雨で水場も復活しており、トイレも使える。それどころか空き缶置き場まである。夕方になり、人が増えてきた。多くは薬師岳から北上してきたようだ。

テントの中で寛ぎながら天気予報を見ると、今日の日中に熱帯低気圧が台風に変わり、最接近は24～25日とのこと。恐れていた事態だ。最低でも目の前の薬師岳は踏んでおきたいが、どんなに急いでも間に合わない。接近前に脱出するには室堂に引き返すしかない。周りが寝静まるまで思案の末、撤退の旨を山の会に伝え、就寝。しかし、朝方は下界の冬に相当する冷え込みだ。食料を十分に持つために、快眠への防寒対策が不足していた。

翌朝は、帰途に就く前に山荘からすぐの鳶山に登った。足元には霜が降りている。昨日のガスはすっかり消え、五色ヶ原を囲むように360°の大展望。堪能して立山に向けて出発した直後、数10～100mほどの前方の登山道を黒い塊が猛スピードで横切り、ハイマツの藪に突っ込んで行った。雷鳥に逢えなかった代わりに、人生初の野生熊接近遭遇だ。怖いというより呆気にと取られた。獅子岳山頂直下では一人が要救助者の二人組に遭遇。休憩しているだけだと思って通過したら、猛スピードで走って来るレスキューとすれ違い、龍王岳山頂からはヘリが向かう様子も見えた。自分はココヘリに加入しているものの、単独遭難は避けねばならない。

それにしても五色ヶ原は美しく静かな場所だ。再度縦走を計画して訪れたいと願う。(記：OT)

CT：一ノ越 10：45-浄土山 11：20-獅子岳 12：50-ザラ峠 13：45-五色ヶ原山荘 14：25/14：35-キャンプ場 14：45/泊/5：50-五色ヶ原山荘 6：05-鳶山 6：35/6：55 -五色ヶ原山荘 7：20-ザラ峠 7：50-獅子岳 9：15-鬼岳東側コル 10：05/10：15-龍王岳 10：50/11：00-浄土山 11：25-室堂 12：15

